

人・緑・未来をつなぎ・はぐくむ「長与のリビング」 本や健康づくりをきっかけに、誰もが繋がることのできるインクルーシブな居場所をつくります

長与町は、生涯心身ともに健康であることを目標に、暮らしが大切に営まれているまちです。近年健康には、地域活動などの社会参加の機会をつくる「社会的処方」が重要だと言われており、図書館と健康センターの融合する本施設はその拠点となることが期待されます。私達は、本施設を多様な関わり方ができるインクルーシブな居場所とし、人々が地域と繋がり相互に学びあい支え合う環境づくりを目指します。



テーマ1 求められる各機能（ハード・ソフト）と機能融合について

1 さまざまな環境や機能の「あいだ」をつくり、誰もがともに居られる場所を目指します

新しい図書館・健康センターを核としたコミュニティの輪をまちじゅうに広げるためには、場所や機能の「あいだ」をつくり、関係をつなぐことが重要です。施設づくりでは、内と外をつなぎ、図書館と健康センターをつなぐ「えんがわ」をあいだの空間として大切にします。（ハードの融合）また、施設とまちの「あいだ」をつくることを目指し、人と人をつなぐ対話と協働のプロセスデザインを行います。（ソフトの融合）

①長与の風景に馴染む緑のランドスケープと分節された屋根

建物は、山並みを望む北東側に配置します。3棟に分節された切妻屋根は、風景と調和して、まちの顔をつくります。駐車場は西側に効率よく配置し、明快な歩車分離とわかりやすいアクセスとします。建物周辺には庭や畑をつくり、また法面に緑化をして、親しみやすく訪れたい風景を生みます。

②機能が混ざり合い交流が生まれる「えんがわ空間」

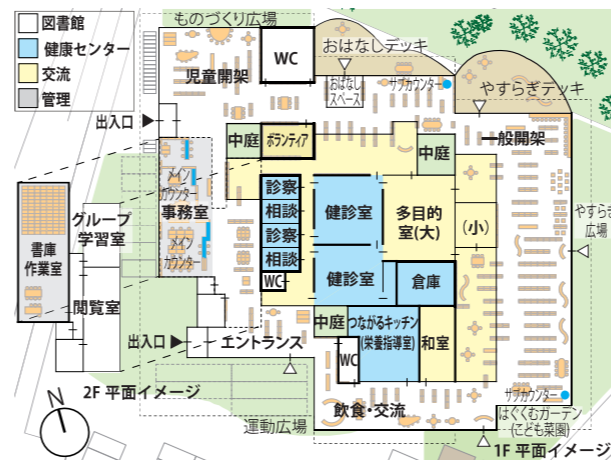
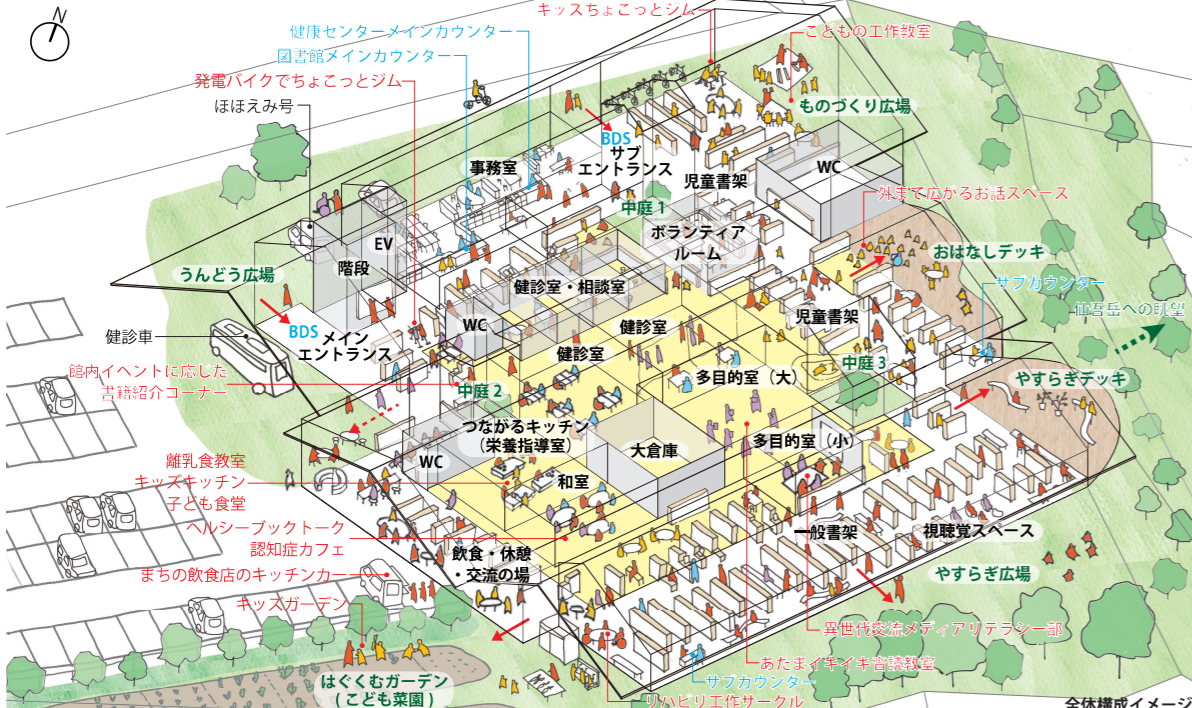
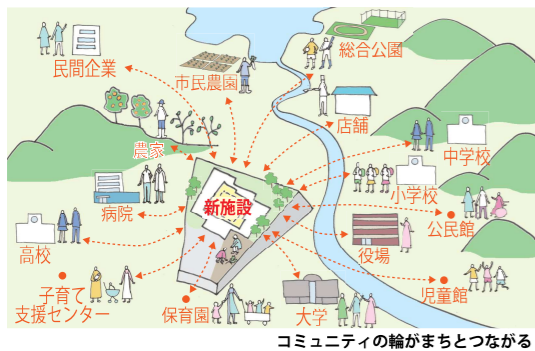
本や健康、生涯学習などをきっかけに、誰もが気軽に訪れて新しい活動や人との出会い・交流が生まれるよう、内外や上下足の境界をヒダ状にして緩やかに繋がります。「えんがわ」のような空間は、誰もがちょっと滞在しやすく、人々が同じ風景を眺めながら一緒にいられる心地よい距離感をつくります。

③過ごし方のバリエーションをつくる「入れ子状の空間構成」

訪れる人や目的に応じた居場所をつくるために、入れ子状の空間構成とします。訪れやすい図書・交流機能をまちに開いて配置し、中央に多目的に利用できる部屋を配置します。間にプライバシーを守る健診等の閉じた小部屋を配置することで、中央の室を開いたり閉じたりしながら、機能の融合や独立の両方の利用に柔軟に対応することのできるフレキシブルな計画とします。

④隣り合う情報と活動が緩やかに繋がるゾーニング

外周に配置した図書機能には、近接する健康センター機能やランドスケープと関連した分野を配置し、本・情報と活動・交流が連携しやすい構成とします。



⑤より良い機能連携を生むための環境づくり

各々の職員や市民が互いに心地よく活動できる環境に配慮します。図書・医療の専門家を交えた対話により、施設管理や企画運営、セキュリティ、情報管理など実際の運営に即して、一緒に考えながら設計を進めます。

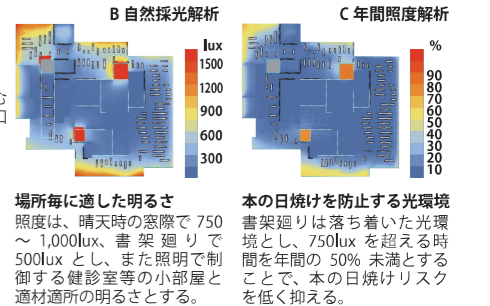
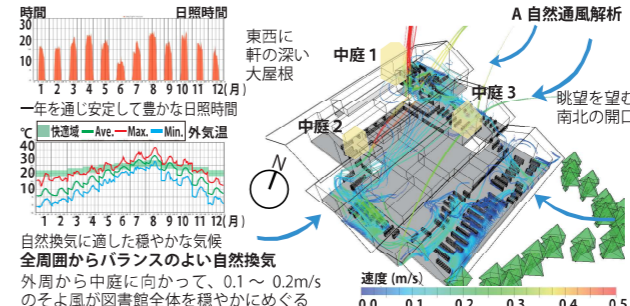
テーマ2 脱炭素社会における建築の環境的配慮について

技術提案書

2 長与町の豊かな気候風土がはぐくむ環境デザインとします

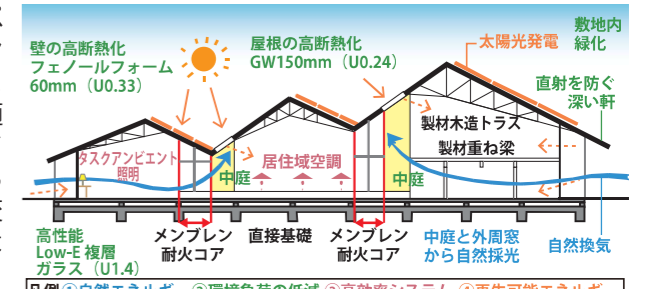
①大きな屋根と入れ子空間によって、長与町の光と風が交わる

豊かな日照に恵まれ南北に卓越風が現れる長与町。東西窓を軒で覆う大屋根と、南北に眺望をのぞむ開口、3つの中庭によって、場所ごとに適した明るさと本の日焼け対策を両立します。外周に開く換気窓から促された自然風は、本棚の間を抜けて穏やかに循環した後、中庭から屋外へ抜けます。



②高性能な外皮と高効率な設備システムがZEBを実現

高断熱な外皮性能、遮熱型 Low-E ペアガラス、床吹出空調、タスクアンビエント照明によって、高天井による大空間で高い省エネ性、温熱快適性、適切な視環境を同時に実現します。さらに応答性や保守性に優れた高効率空冷 PAC エアコンや全熱交換器、大面積の屋根の太陽光発電などを組み合わせ、ZEB を実現します。



③地域産材を活かした木構造

「ながさきの木（ヒノキ・杉）」を活用した地場産流通製材による木造とし、サステナブルかつ経済的に実現します。耐火コートを挟んだ別棟とすることで、大部分を法的に耐火被覆が不要な「その他建築物」とし、木架構を表とした温かみのある空間をつくります。

テーマ3 コスト縮減および工程管理に関する意識について

3 豊富な経験を活かしコスト・工程管理を徹底します

①豊富な経験を活かして確実なコスト管理・工程管理と発注者支援を実施

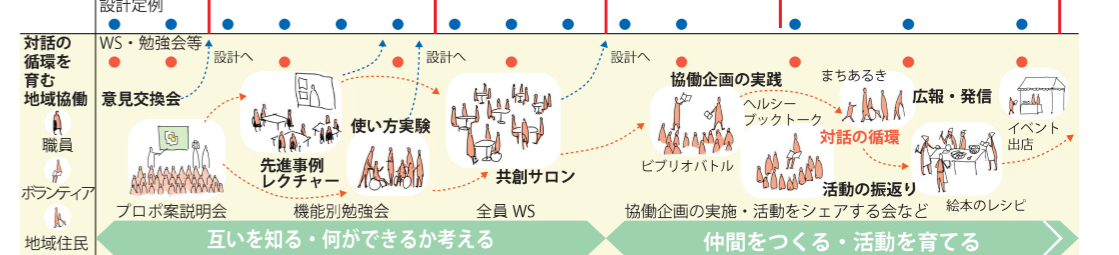
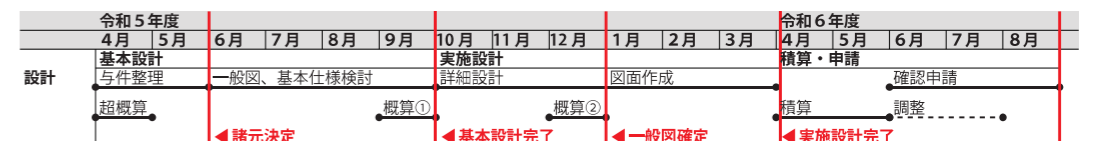
設計の節目で概算を行い確実に建設費を管理します。また光熱水費・維持管理費等を想定しランニングコストを縮減します。また豊富な公共施設設計の経験を活かし、決定期限を遵守する確実な工程管理を行うと共に、補助金取得などの発注者支援を重視します。

②図書館・医療の専門家との協働による計画・運営の一体的な検討

館長経験のある図書館専門家や地域医療の専門家を加えたチーム体制により、職員の方と一緒に、専門機能の特性をふまえた施設計画を行います。また、計画段階から管理・運営計画を見据え、設計と運営が一体となった計画を行います。

③職員や住民の方々との継続的な対話による、社会的処方の場となる環境づくり

開館後も職員や住民の方々との対話を支援し、「この施設で目指すこと」の理解を深め、誰もが主体的に活動することのできる施設づくりを目指します。ワークショップ等を通じて、気づきを共有し、リンクワーカー的人材を育て支援します。



リンクワーカーとは地域コミュニティ等と複合施設の利用者をつなげる役割を担う人材